

件名	柏崎刈羽原子力発電所6号機移動式炉心内計装系の一時的な弁の不具合について
通報日	平成16年10月21日
概要	<p>当所6号機（改良型沸騰水型、定格出力135万6千キロワット）は、現在調整運転中ですが、平成16年10月20日午後5時頃、移動式炉心内計装系^{注1}の装置を原子炉格納容器に出し入れするための弁の「閉」が確認できない事象が発生しました。本日、調査の結果、手動操作においても状況は変わらず「閉」が確認できないことから、午前11時57分、保安規定に定める「運転上の制限」^{注2}の逸脱と判断しました。</p> <p>その後、当該弁に付属するスイッチの点検を行い、不良個所を切り離した結果、午後1時37分、当該弁の「閉」を確認し、同時刻「運転上の制限」の逸脱から復帰いたしました。</p> <p>なお、これによる外部への放射能の影響はありません。</p> <p>注1：移動式炉心内計装系 原子炉の上下方向の中性子分布を測定する装置で、検出器を炉心内で上下に移動することにより連続で測定できます。また、局部出力領域モニタの校正用としても用いられます。</p> <p>注2：運転上の制限 保安規定では原子炉の運転に関し、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足しない場合に要求される措置」等が定められており、運転上の制限を満足しない場合には、要求される措置に基づき対応することになっています。なお、今回のケースでは、原子炉格納容器の隔離機能に関する措置を求められていたものです。</p> <p>（平成16年10月21日 プレス発表内容）</p> <p>http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/16102101.pdf</p>